

「枢機卿」

ジェイムズ・シャーリー 作  
千葉孝夫 訳

解題

ジェームス・シャーリー（一五九六—一六六六）は、一六四二年、清教徒たちの手で劇場が閉鎖される以前、ギリシア古典劇にも比すべき絢爛豪華な花を咲かせた、英国エリザベス朝演劇の掉尾を飾った劇作家。換言すれば、そのエリザ朝演劇が凋落に赴いたキャロライン（チャールズ一世）時代に、敢然として、いわば「アンカーを勤めた闘将」とも言うべき作家で、オックスフォード、ケムブリッジの両大学を卒業し、牧師、教師と職を転じたが、一六二五年頃から劇作を始め、その作品は、喜劇・悲劇・悲喜劇を交えて約四〇編に上っている。劇作家としての彼の本領は、喜劇において発揮された、と云われているが、ベン・ジョンソンに代表されるエリザベス朝喜劇と王政復古期の風習喜劇とを結ぶ絆になっている。一方、「枢機卿」（一六三三年出版、一六四一初演）は、彼が一番の自信をもっていた悲劇で、ウエプスターの「モルフィ公爵夫人」を彷彿とさせるが、マキアヴェッリ顔負けの、聖職者にあるまじき狡猾老獪な策略を弄して、自国の政界に

跋扈君臨し、肩で風切つてのし歩いていた、イアーゴー紛いの陰険悪辣な主人公を暗躍させたこの作品は、（彼が稀代の悪玉ながら、終盤に至っては、己が罪科を悔悟して告白する、という、一服の清涼剤もそつなく用意されていて、）キッド、マローウ、シェイクスピア、ウエプスター、ターナー等の作家に受け継がれてきたエリザベス朝（復讐）悲劇の終幕を飾るに相応しい、心憎い傑作と言えよう。

（梗概）野心満々の枢機卿は、甥のコラムボをナヴァール王の養女ロソーラ（公爵夫人）と政略結婚させようと目論むが、ロソーラの恋人アルヴァレス伯爵が先手を打つ。怒ったコラムボは、結婚当夜新夫アルヴァレスを刺殺するが、ロソーラは、ヘルナンドー大佐に助けられて、コラムボに復讐する。更に、枢機卿は、甥の復讐をすべく、ロソーラを汚して毒殺しようと企てるが、自らもヘルナンドーに殺されてしまう。

前口上

今回（取上げましたの）は、題して「枢機卿」という悲劇であります。

我々は、如何な道具立ても指示してはおりませぬ故、

私は信じております、貴方達のうち、大抵の方々が

只今現在フランスにお出かけで、其処で諸事に忙殺されていらっしやるのだ、とね、

貴方がたが、この本国で、態々身を堵して努力して下さいにしまして  
もね。

ですが、私共の劇の進行につれて、丸つきりそんなことはない、とお分かりになる迄、皆様の創造を活発にゆかせておいでになつていて

下さい。

詩人の技術は、筋立ての微妙な進路や動き方を通して、

貴方がたの考えを導いてゆくことであります。

たとえこの劇が、皆様が予期なさつたものとは異なつてゐるにしましても、

皆様のご期待を超える立派な出来栄だ、と分かりましたなら、皆様

はお宥し下されましよう。

手前は、何もはつきりしたことを申上げる心算はありませぬし、皆様  
は

如何なことをお考えになるのもご自由なのでして、我々は、それを劇

と呼ぶばかりであります。

それが、喜劇的な詩想、又は、女主人公の恋、伝記（中世騎士）物語、

乃至は、恐ろしい悲劇である、と判明しましよつとも、

芝居のピラ（ポスター）には、明確にそれが規定されてはおりませぬ

し、きつぱりと

15

納得は出来ぬと致しましても、私は、それを喜劇と考へたいのであります。

この劇の題名ともなつてゐる枢機卿の、深紅色をした衣裳と、

その高い地位にも拘らず、ですな。しかし、それは、宿命の手に委ねられてゐるのであります。

ですが、皆様がその上演をご覧になる前に、手前は、皆様にお伝え申し上げます、

作家が申しましたことをね。（そして、彼がそう申しました時、彼は顔報らめもしましたがな、）

彼自身の、他の劇作品と較べてみて、（何しろ、彼が考えましたところでは、

他の作家達の傷ついた名声を土台にして、己が機知の為に、

金字塔を築くことは、彼の矜持だったのですからな）この劇は、

彼の最高の傑作と比肩するかも知れぬ、と。そして、敢て申したのであります、

本当に、私はもう途方にくれてしまつたのだ、と。彼はそれ以上何も  
申しませんでした。それでは、皆様も、

この劇が果てましたなら、銘々お好きなように仰有れば宜しいのです  
からな、皆様様。

25

枢機卿

登場人物

- (ナヴァール) 国王
- 枢機卿
- コラムボ 枢機卿の甥
- アダ ルヴァレス伯爵
- ヘルナンドー 大佐
- アルフォンソ 大尉
- 貴族二名
- アントニオ 公爵夫人の秘書
- 大佐二名
- 大尉二名 及び、他の士官達
- 兵士
- アントネツリ 枢機卿の従僕
- 取次人
- 外科医
- 護衛兵
- 従僕達 (ペドロ、ジャックス、ロジェロを含む)
- 従者達、仮面劇役者達、廷臣達、歌手達
- 公爵夫人 (ロソーラ)
- ヴァレリア 貴婦人
- セリンダ 貴婦人
- ブラセンティア 公爵夫人の侍女

一幕一場

一方の扉から、貴族二名、もう一方の扉から、アントニオ、登場

貴族一 あれは一体誰かな？

貴族二 公爵夫人の秘書だよ。

貴族一 あんた。

アント 閣下方の下僕でございます。

貴族一 若年のメンドーザ<sup>(3)</sup>公爵への、公爵夫人の喪が

明けてこの方、夫人は如何お過ごしかな、航海中の公爵が

時ならぬ死を遂げられたこと故、夫人は、処女にして、寡婦という

状態で取残された訳ですがな。

我等が偉大な枢機卿の甥御ドン・コラムボとの

盛大な婚儀が行われる日は、何時に決つたのかな？

アント お二人のお都合が一致した時、ということになるでしょうな、

お二人がこっそりと教会へ忍び込もうとしている訳ではない、と

なると、

どうも、その結婚式は賑やかで大々的なものになることではないかな。

では、これで、閣下方にはお暇を頂きますぞ。

貴族一 「お二人のお都合が一致する」だと？ ああ、お気の毒に、

公爵夫人は、

コラムボに首つたけになっている訳ではありませんな、国王の権力

によつて<sup>(4)</sup>

無理矢理彼女と別れさせられた、若いダルヴァレス伯爵のことを

彼女が想っている、となつたらね。

貴族二 それに、枢機卿の勸告によつて、卿の甥御を

5

5

10

15

公爵夫人の寝台に近づけること、それも拙い<sup>54</sup>ですな。

貴族一 気をお付けなさい。枢機卿は、空翔ぶどの鳥からも、密かに情報を受取っているのですからな。

貴族二

傲岸な奴さんなど、犬に喰われてしまえ、だ。  
紫色の（衣装を着込んだ<sup>55</sup>）

彼は万人を支配しているのだが、それでも、コラムボは、勇猛な紳士なのですからな。

貴族一 彼は、軍神マルスのお気に入り、今迄幾々勝利に口説かれたことがあるのですな。大胆不敵で、

いとも気高い気魄の持主なのです。彼が備えている誇り高さは、彼への賞讃が正当なものと証明するに足る程の栄光を獲得している故、

一種の飾りともなっているのですな。

貴族二

しかし、それは、美しの公爵夫人へのアルヴァレス伯の権利資格をば、彼が奪い取って、身に着けてもいい、という論拠にはなりません。より卑しい生れの人々なら、

これ程の財宝を、そんなにむざむざ人手に渡すようなことはありません。すまい。

貴族一 コラムボの名前は、戦で大いに裏いており、栄光赫々たるその武技武芸や手腕は、

偉大なアルヴァレスを凌いでいるのです。しかし、アルヴァレス伯には、

気魄が欠けているということはありません。何しろ、彼にのみ、大勢の

高潔な先祖達の廉潔が、生き残っているのですからな、大きなその一家一族の

最後の一人という訳でね。

貴族二

国王様相手に争うとなると、安全無事には済まぬ、と貴方は仰有るでしょうな。

貴族一 もしも、国家の舵取り役となっている枢機卿が、ご機嫌を損じたなら、

もっと危険になることでしょうな。ダルヴァレス伯爵は、その流れに従う方がより賢明ですな。

彼女を愛し、彼女に愛されてもいるという、己が特権を振り回すあまりに、

自分達二人の運命を、共に嵐に揉まれさすよりもね。

貴族二 もしも生まれつきの恐怖心ではなく、栄知が彼を落ち着かせられるものなら、

私は気に入りましたな。公爵夫人は、一体如何な風に振舞っておいでですかな？

貴族一 彼女は、是非もなく従わねばならぬ、国王の意向よりも上位の力に

弾みをつけられて、行動しているのですな、早速にも飛んで行きたい、と

心底思いながら、海岸を望み見ているのに、時としてつむじ曲りの水先案内人にもなる、逆風の所為で、遙か離れた所へと運ばれてしまった、

誰か、悲嘆にくれている旅客みたいだね。

貴族二

彼女は、優しく、気高い性質の持主なのですな。

貴族一 それが、アルヴァレス卿を推賞してくれている訳で、婚姻神ヒュメナイオスは、これにもましてお似合いの、ハートと血の持主一組を結び合わせることは出来ませんな。

35

30

25

20

50

45

40

アルフォンソ、登場

貴族二 アルフォンソ！

アルフ 閣下！

貴族一 如何な大事件が起つたからとて、

あなたは国境地方から戻つて来たのかな？

アルフ 貴方がたにご勧告頂くだけの

値打ちがあるような事件ですな、国王様が、私がお届けする、

総督から託された便りをお読みになられました時にね、アラゴン人

達は、

その同盟の誓いと盟約とを破棄して、

今や武装しているのであります。彼等は、未だ我が軍の方へ進撃し

て来てはおりませぬが、

敵が迫るのを、唯手を束ねて、待ち受けているだけでは、安全策と

は言えないのであります。丁度間に合うように、我が軍が

敵軍の侵入の機先を制しようとするのであればね。

貴族二

れ程迄も傲慢無礼になれるものですか？

貴族一 こんな騒動を私は予知していましたぞ。

貴族二 国王様の穩和穩健さはさておいて、一体如何して、彼等は

今度の叛逆を思いついたのですか？

貴族一 ですが、この知らせを聞いて、

枢機卿は一体如何なご様子ですか？

アルフ

りませんぞ、尤も、自分は潔白なのだ、と

別に顔面蒼白になつてはお

65

嘗て彼等が不意討を喰らつたのは、彼の勧告助言によるものだった  
のですからな。

貴族一 我々の現在の技術を挙げても、

推測することも出来ぬ程のものが、

この物語には含まれていますな。それに、どうも推断してもよきそ

うですな、

この炎は、それを吹いて煽りたてる微風が家にはあるのだ、とね。

この国の友人味方だ、という表情をその顔に浮べていても、胸中密

かに叛逆心を拘っている者が、

ないでもありませんからな。

アルフ 閣下方、お暇を頂きますぞ。

貴族二

味方だぞ。

船長殿 我々は、あなたの友人

(一同、退場)

222

彼等は、敢てそ

60

一幕二場

公爵夫人、ヴァレリア、及び、セリンダ、登場。

ヴァレ 奥様、そんなにお鬱ぎにならないで下さい、そんな風に

激情に押し流されておしまいになつては、この王国が今迄自慢した

ことのある、

こよなく高貴で、美しいそのお軀を、駄目にしておしまいになりま

すわ。

セリン そんなお悲しみは、亡くなったあの方を悼む為には、

奥様のもう一着の、黒の喪服の方が、よりお似合いになるでしょうね。

悲嘆にくれる服喪の期間は明けましたし、奥様が

高貴のお生れで、今にも結婚しようとなさっている。

宮廷に仕えるお方であることと関連した、ありとあらゆる喜びが、変化を齎そうとしているのですわ。

公爵夫

貴女方、お二人にお礼申します

わ。

私の胸中に遺っている、少しばかりの心の鬱ぎを

どうか赦して下さいな。一年に亘って、私は喪に服していたけれど、

悲嘆との清算を未だ済ませてはならず、何か陰鬱な

想いが遺っているのかも知れないの、私が喪った、あの方への

心鬱ぐ想い出を、この心に抱いた仮でね。

わたしの悲嘆と私との間で決着をつける、平静さを示す心算の、

正にこの新しい衣服と、色鮮やかな衣装でさえも、

心鬱ぐ想い出に他ならないのよ。だけど、私は、もつと楽しい

考え方をしよう、と決心しているのよ。それで、もしも

私に心から微笑んで欲しい、と貴女方が思っておいでなら、貴女方

は、

悲嘆という言葉をお口にしてはならず、又、忠言勧告として、それを

捨ててしまつように、と言つてもいけないのよ。

そんな忠言勧告は、寒いでやりたい、と貴女方が思っている

傷口を、新たにパツクリと開けてしまい、其処からの出血を止めて

やりたい、と貴女方が思っている、

その原因を絶やさぬようにしておくことになるのよ。何か私たちが

楽しくなるような話をしましょうよ。貴女方お二人は、我が国の

宮廷の

ありとあらゆる故事来歴に通じておいでだわね。ねえ、教えて頂戴  
ヴァレリア、一番眉目秀麗な男性として、一体誰が貴女に投票し  
て貰ったのかしら？

(傍白) ニこつして、私は、平穏平静を装わなければならないのだ、

私の胸中では、醜い暴動が起っているというのに。

ヴァレ

ご婦人方への

讃辞となりそうな言い方を、洗い喋り調べてみたのですけれど、

分かったのです。思い切つて、奥様に申し上げて宜しいでしょうか

しら？

ですが、奥様は、面白がつて、私に顔報らめさせるようなお言葉で

そのしつぺい返しはなさらないでしょうか？

公爵夫

いえ、いえ、そんなこ

とはしないわ。思いの仮にお話なさい。

ヴァレ 私は、貴女の忍耐力を苦しめようとは思いませんわ、奥様、

ですけれど、

たとえこの私が王女だったとしても、ダルヴァレス伯爵は、私

を妻に、と

世界中で私の一番に求めるのに相応しい程、魅力的な方なのだ、

と私は考えるでしょうね。

公爵夫 (傍白) アルヴァレスですって！ 彼女は、私の心を見張る

スパイだったのだわ。

ヴァレ あの方は、若々しく活発で、魅力的な姿形をしているのです

わ。

公爵夫 私はもつと恍惚とするような容貌(の人)を見たことがある

わ。

ヴァレ それでは、その顔には、

女性らしさが多すぎる程たつぷりと含まれていたのですわ 彼の目

は、口程にも物が言える位に人の心を動かしていますし、彼の外見風采は、とても魅力的なので、彼が何も言わなくとも、誇り高い女性達を残らず、己が虜として誘い出せるのです。その髪は、鴉の濡れ羽色で、

それが生まれつき巻き毛になっていて

公爵夫 どうか、もうそれ以上何も言わないで。貴女は彼を愛しているのね。

さあ、これから、貴女が大切に思っている人のことを話して頂戴、

セリンダ。

セリン アルヴァレス様は、正直に申し上げなければなりません、美しい体つきのお方なのです、だけど、より優れた心根を抱いた、

もう一人のお方の方が、

思うに、もっと女性を欲ばせられましょう、もしも男性と言うものを存分に考慮に入れるならばね。それはですね、奥様、

今や貴女のものである、と誓いをたてている、コランボ様のことですね。

公爵夫 (傍白) おお、私を責め苛むものよ！

ヴァレ (傍白) この奥様は、あの人が好きではないのだけ。

セリン 彼は、私が見聞きしている、ありとあらゆる男性にもまして、素晴らしい外見風采と、勇猛さとを備えているのです。

ヴァレ

彼は、武

人で、

荒削りの男であり、遠くから眺めると、見栄えがするのです。

彼が話しをする時、この婦人は胆を潰すことになるし、戦と、恐ろしげな

顔付をした名誉面目とが、彼の愛人なのです。リュートの音色を聞

けば、

彼は激怒してしまうのです。恋は、彼を己が司祭にする心算はなかったのですね。

もう一度お赦し下さい、奥様、私達は、唯、お話しすることしか出来ませんけれど、

貴女には、愛情(の対象)を選び、その最後を飾るだけの腕前が

ありになるのですものね。(セリンダ、及び、ヴァレンリア、脇へ歩いていく)

公爵夫 あの女性達を凌ぐ身分地位に生まれながら、

彼女達流の自由さが欠けているとは、一体如何いことかしら？

彼女達は、彼女達自身の、又は、国王様の、

高貴な身分地位に強制されてもいないし、隷属させられている訳でもないのよ。

だけど、彼女達に、心から自由以外の世界を眺めさせ、自分達の目で見て、愛する者を選ばせるがいい。私は、苦惱する

哀れな私の胸を纏い、私の生得の特権を確と握っていなければならないのよ。それは、今や私をせつ

いて、

恋する者の心を支配するだけの、権力も術策もお持ちではない、と国王様にお伝えさせようとしているのよ。

アントニオ、登場。

アントニオ、

ダルヴァレス伯爵は、何

と仰有ったの？

アント 奥様、あの方は、奥様に何候なさるそうぞ。

公爵夫 私が申しつけたように、あの方をお待ちしていて、お出でになつたら、

50

45

40

65

60

70



内々で私に知らせて頂戴。

アント 奥様、手前にはお知らせがあまりして、

それは、今し方宮廷に届いたものですが、戦争が起りそうですぞ。

公爵夫 私には、此処（この私の胸）に、人殺しの想いという軍勢が駐留しているのが分かるのです。

アント 国王様は、ドン・コラムボを將軍としてお選びになっており、

あの方は、直ぐにもお暇乞いをなさることになっていますぞ。

公爵夫 何という激しい洪水が、この心中迄押寄せて来たことだろう！

一体何処迄あの方は出かけることになるのかしら？

アント アラゴン迄

ですな。

公爵夫 それは、始めのうちは、宜しいわ。

人の知らない世界への巡礼の旅が、

彼に欠けている筈はないでしょう、もしも私が心に想っただけで、彼

を運んで行けるものとすればね。

アント あの方が其処へ出かけられることは、不可能ではございません

まい。

公爵夫 どうして？

アント 人の知らぬ、もう一つの世界（あの世）へですぞ。あの方は

闘いに出かけられるのです。

それは、あの方の流儀に副ったことであり、そんな状況の下では、

死なれるのは、その結末として、ありうることなのですからな。

公爵夫 その知らせを秘密にしておいて頂戴。

アント あの方は、そう長い間留守にはいらっしやらないでしょ

う。その職掌柄、

あの方は、早々に奥様の御手に口づけなさることになりますよ。

（退場）

85

公爵夫 暇乞いをする暇もない程慌ただしく、

あの人が行ってしまったなんてことは、ありえまい。（ヴァレリアと

セリンダとに向って）私も、是非共、

貴女方のお話の仲間に入れて頂きたいものだわね。貴女方は、

私の気分をバツと明るくしてくれたから、私は、もうこれ以上意気

消沈することはないでしょう。

セリン 私達は幸せになれるでしょうに、もしも私達が、奥様の気に

入るような

意見を、一つでも持ち出せるのでしたらね。

ヴァレ 今迄奥様は、

泣くくらいいらっしやいましたけれど、その微笑みの方が、貴女に

はお似合いですわ、奥様。

公爵夫（傍白）私には、自分の気持ちを抑えている術はないの

だ。

ブラセンチア、登場

ブラセ 枢機卿の甥御の、ドン・コラムボがお見えですわ、奥様

公爵夫 もうお見えなの？ あの方のお傍に付いていなさい。（ブラ

センチア、退場）

ヴァレ 私達も

お暇乞いをしましょうか？

公爵夫 貴女が如何程あの方を讃め称えたものかをね、ヴァレリア、

あの方に知らせてはいけませんよ。

ヴァレ もしもあの方がそれを知っていたとしましたら、奥様、私に

は、自分の考えを自由にあの方に伝えてもいいのだ、という自信

が生れることでしょうに。

95



コラムボ、登場。

公爵夫 貴方、今迄貴方が私に施して下さいた恩恵に何とかお報いしたい、と

私が努めている間に、貴方は、絶えず、次々と新しい

名譽を（貴方の召使いである）この私に授けて下さり、私の負債を

とんでもない高額の迄も殖やして下さいたので、私は、如何にし

ても貴方への負債を返済出来そうもありませんわ。

コラム 奥様、これ程の幸せに飽き飽きしてはならないその者、

つまり、この私が

真っ白な貴女の御手に口づけ致しますぞ して、御婦人方よ、

貴女方の微笑みをば、私は、自分への激励と受取りますぞ。

私は、こんな宮廷流のかげひきを、早速にも、実行しますぞ。（ウァ

レリア、及び、セリンダに口づけする）

セリン（傍白）この人は、口づけの仕方を仕込まれたことがあるの

だわ。

公爵夫 貴方のお顔には、何か、

私が今迄読んだこともないようなものが、書いてありますわね。

コラム この文字が、貴女のお気に入りでしたかな、奥様？

公爵夫

るではないわ、何故なら、それで、貴方が陽気快活な方だ、と分

かりますものね。

コラム それは、このコラムボが、貴女の

惜しみない愛を受けるに相応しい者、となるに違いないような、

名譽面目が入り込めるようにする為のものなのです。国王様は、こ

の私が、

王の軍勢を率いるのに相応しい者、と考えて下さっているのですからな。

公爵夫 まあ、何と、軍勢ですって？

コラム 我々は、聖職者の手を煩わせてはならないのです、この私が

栄光に充ちた、血腥い戦場で刈取るのを、今や遅し、と待ち受けて

いる勝利をば、いま一つ私が本国へと齎す迄はね。

公爵夫 だけど、貴方は、私を置き去りにして、貧婪な戦場に

身を晒すお心算なのですか？ 如何な敵でも

私達の仲間を割くことは出来ませぬ、国王様も、それ程残酷無

慈悲な方ではございません。

コラム 国王様は立派な方だし、（私を將にして下さったという）こ

の恩恵は、

ありとあらゆる美しさを兼ね備えた、貴女という、

国王様の贈物よりも、私の野心大望に副っており、その貴女の美し

さはば、貴女を崇める武人（騎士）たるに相応しく、私は愛せま

すし、又、一旦闘つては、（彼女、さめくと哭く）

再び貴女の許に戻って来られるのですな、貴方の征服者としてね。

そうなると、私は、こんな愚かしい愛着（を抱いている自分）を叱

りつけなければなりませんな。

アント二才、登場。

アント 奥様、国王様と枢機卿様がお出でですぞ。（退場）

アント 奥様、枢機卿、及び、貴族達、登場。

国王、枢機卿、及び、貴族達、登場。

国王 貴女、私は、貴女から従僕（想い人）を呼び戻し、

115

110

105

100

125

120

彼の口美を確固たるものにすべく、やって来たのです。大義名分が承諾してくれるよう、貴女に嘆願することでしょう。彼が帰還すれば、

貴女達の結婚には、意気揚々たる式典が授けられましょつ。

その時迄、貴女には、我慢して頂かなければなりませんぞ。

枢機卿 (傍目) 彼女は、彼と別れるのが悲しい、という様子だな。

(コラムボへ) 甥よ、私はえらく気に入ったぞ。

セリン (ヴァレリアへ) 將軍は勇猛な方ではありませんこと？

一体如何な女性が、一寸した好意を彼に示すのを拒むものかしら？

ヴァレ 貴女は、私を改宗(改心)させてくれたし、私も、それが

罪などではなかったらいいのに、と思うようになってきたわ。

セリン そんなことは、窮屈な良心にお任せになつたらいいわ。

ヴァレ 貴女

は、軽口を叩いていらつしやるのね。

セリン だけど、彼の方が、もっと人を歎はせられるでしょうよ。そ

んな人々は、

そのお小姓たちと一緒に寝るものかしら？

ヴァレ 貴女は、(コラムボ様と

共寝をする為) お小姓と服を取り換え(巧い経路で目的を達成し)

たい、と思つていらつしやるの？

セリン あの方は、血腥い仕事に出かけよつ、となざつているところ

なのよ。

あの方が、後継ぎの子供も作らない仮で、昇天なさつてしまつとし

たら、お気の毒なことだわ。

ところで、子孫作りに手を貸そうとしないような女性は、無情

冷酷な人のだわ、ひたすら只管国王様や

この国の為を思つてね。

145

ヴァレ 貴女は、向う見ず過ぎるわよ、私達は、目を付けられているかも知れないのですからね。

公爵夫 (国王に) 陛下のご意向が、私を導いてくれるに違いありま

せんわ。幸せと戦勝とが、

絶えずこの方の剣に付添いますように！

コラム おさらはですな。(国王)

コラムボ、枢機卿、貴族達、退場)

公爵夫 どうか、私にあれこれ吟味してみることを許して頂戴。

庭で私が行くのを待っていて。

婦人達 お待ちしてましょつ。(貴婦人達

退場)

公爵夫 これは、如何な予想にもまして、巧くいったものだけ。

この私を赦して下さい。美德貞節よ、今迄私が猫を被つていたこと

をね。

そして、私の証人になつて下さい、私は、彼を

誘惑したり、裏切つたりする気は毛頭なく、最初私が

恋と名譽面目にした約束を、確実に果たしたい、と思つているだ

けなのよ。

アントニオ、登場。

アントニオ、登場。

アント 公爵夫がお見えですぞ、奥様。

公爵夫 あの方を入れてあげて。

そして、誰にも私達の邪魔をさせないようにして頂戴。(アントニ

オ、退場)

私は、一

体

私は、一

145

155

如何な

顔付をしていれればいいものかしら？ アルヴァレス伯爵を振り捨てたという、私の罪悪感が、

それは、私の心が決して同意しなかった行為だけれど、何か赤い字で、私の顔に屈辱と物語とを書き記そうと、  
血を呼び出すことだろう、

160

アルヴァレス、登場

アルヴ

奥様、手前は、欣然として、

奥様のご用命に従ったその者（この私自身）を差し出し、貴女が如

何なことをお命じになるものか、

お聞かせ頂くべく、参上致しました。

公爵夫

嘗て、私は、貴方を

愛する、とお約束しましたし、それは、私の心を、貴方のお心と繋

ぎ合わせる、僧侶の力と、役目とを兼ね備えた愛だったというの

に、「命ずる」なんて、不法不当ということになりましょう。

165

アルヴ ですが、奥様、手前は、貴女のことを考慮に入れさせて頂け

ますぞ、

従僕たるに相応しい態度で、それと同じ位謙虚に

貴女の名誉面目と、大いなる幸運幸福とを慮ってね

貴女が、ご自分の恵み深さを思い起こされたなら、私が授けられて

いたものを、

何もかも捨てて下さい、私は、それを、自分への好意と考えるだけ

の自尊心を備えていましたからね。

公爵夫、恋が、私達のお互いの（恋の）誓いを確信する以上のことを、

今迄貴方に教え込んだことはなかったのでしょうか、天と、貴方、

170

に対するお約束に、

私がこれ程さつさと違反することもありうるのだ、と貴方が考えられる以上のことをね？

それは、貴方の誠実さを、多少とも信じられぬことから起きるものに違いありませんわ。

アルヴ

失礼ではございますが、

思いの俣にお話させて頂けますれば、手前は、抜け目のなさという

点で、人を裏切る程

老獪でもなければ、何時何処で途方に暮れるものか、

して、如何な風に、我が悲運と我が苦痛とに耐えればいいものか、

早晩見抜けない程未熟でもないのです。

その傷口（「苦痛」*sovereign*）は、たとえ私が健全さを期待している

にしても、絶えず中で出血しているという、

苛酷で、絶望的な状況を呈しているのですな。

貴女の高貴なお家柄と、身分地位とのお陰で、

貴女は、国王様のご愛顧恩恵と、（油断のない）ご配慮とを頂いて

生い育たれる立場に置かれましたが、それを他に移すべく、国王様

が、

その権力に照らして、光り輝く貴女の美貌が照らし出すに相応しい

対象として、国王様の偉い寵臣であるコラムボを選びだしたので、

ということを知っておらぬ訳ではありませんぞ。

手前は、つい最近、国王様がわざわざその笑顔を

向けて下さった臣下なのですが、それは、何も、この私を傲慢不遜

にしてやるう、というお心算の

ものではなく、賢明にも、この私をば、安全無事な境涯へと、

照らし導いてくれよう、と意図されたものだったのです。おお、愛

する奥様！

190

185

180

175

私は、己が愛情に、これ以上の証人を立てることはしませんぞ  
 もしも、今尚私とその（愛という）名をそれに付けるのを、貴女が  
 許して下さいならば、ですが

私が敢て自分自身を敗者にして、

貴女のお望み通りに、私の幸せを洗い洗い断念してしまう以上の証  
 人はね。

貴女の高貴なお身分地位を喪われることなく、些末なことはお忘れ  
 下さい。

それは、貴女が私を引き揚げ（寄せ）て下さったとしても、精々  
 雲宛らに、貴女の回りに纏わりつくばかりで、貴女が生まれながら  
 に備えておいで、

華々しい栄光をば、曇らせるだけなのですからな。

公爵夫

高貴な家柄に生

れ合わせ、

高い身分地位にある者の惨めさよ！ この私が、もつと下賤な

家柄に生れ変われるか、さもなけりや、私の血の中で、

それを貴方の血とは均合わない（貴方の血よりもっと高貴な）もの  
 にしている要素を一掃出来るような、何等かの方法が見つければ

いいのに。だけ、

そのきつちりとした身分地位上の差異は、私達の間には存在せず、

幻（名ばかり）の差別、肩書資格の違いがあるだけで、

貴方の家系は、王家の人々を養っているのと同じ位

高貴な血を受け継いでいる訳で、「ロード」「lord」と

自称しているような人は、高貴高潔さの

ありとあらゆる本質真髄を備えている

人なのですよ。

アルヴ

私達をこうして切離しているのは、

唯単に家名だけの問題ではなく、国王様のご立腹が  
 私達を脅かす先触れとして伸しかかっているのですが、その流星を  
 養っている食物は、自分の甥をば、

出世させようとしている枢機卿の企らみなのです。すると、

何かとんでもない行動をとらせる為に、捏ち上げられた人物である、  
 あのコラムボについては、

一考を要しますな。国王様・枢機卿・コラムボという、<sup>て</sup>三人の  
 中で、

貴女が選び出されるのに、我々二人にとつて、一種の破壊の因を  
 孕んではないような人物は、一人もおりませんからな。

公爵夫 すると、貴方は、惧れの気持を抱いて、あの人々を眺めてい  
 らっしゃるの？

アルヴ ほんのちよつぱり

貴女に情ないだけの宿命をも悲しみ嘆いて、涙を流すのを  
 我が務めと考えるに違いないような眼ざしでね。しかし、私は、若

さに任せて、敢えて大胆にも、

運星のありとあらゆる暴虐に立向っているのです。それは、腹黒い  
 悪意から、専ら私一人の悲劇を狙い打ちしているだけですがね。

この私みたいな人間ばかりが棲んでいる。幾多の世界よりも、尊さ

という点で

貴女は凌いでおられますからな。

公爵夫

戦に明け暮れているコラムボが、

名誉面目を熱烈に渴望するあまりに、死へと到る

道を見つけ出したとしたら、如何でしょうか？

アルヴ それは、ありうることですね。

公爵夫 さもなけりや、一体如何な企みを廻らすか、乃至は、如何な

理由があるにもせよ、

205

200

195

225

220

215

210

彼が、私への自分の要求を捨てて、私が自分で相手を選ばずに任せてくれるとしたら、如何でしょうか？

アルヴ それで、もしも私が、幸運にも、

貴女の想いの中に、我が名を憶えていて頂けるものなら、

新たな幸せで私を飾り立てるのに、欠けているものは、何もありません。

だが、そんな風に、私は、天について夢想していますが、目覚めて

は、恋する

私の心が錯覚に陥っている、と分かるのです。司祭が

貴女を他の男と結びつけ、婚姻の歎びで

夢中になった貴女が、暇を見つけても、このアルヴアレスのことを憶い出そう、という気になってくれなくなったら、その私の心は、

貴女を喪ったこととて、がっくりと萎れるに違いありませんが、し

かし、それでも、私は、

嘗ては貴女に目をかけられていた、過去の私をば、粗方喪つてしま

つなどということはありません、

溜息を吐きながら、貴女が幸せに過されるように、と依然として祈つ

て差し上げることでしょうな。(退場)

公爵夫 私は五里霧中で、一体如何考えたらいいものか、丸つきり分

からないけれど、何か好意的な運星が

決意を固めた私に微笑みかけ、私達二人の恋人に

指図して巡り合わせ、貞淑な抱擁が出来るようにさせてくれるのだ。

コラムボとの共寝の床には、私の經帷子が入っているのだわ。(退

場)

240

一幕一場

コラムボ將軍、ヘルナンドー、(陸軍) 大佐二名、アルフォンソ、

大尉二名、及び、その他の士官達、作戦會議に臨席の態にて、登

場。

コラム この會議に臨んだ諸君の中で、その面おもてに蒼白な

恐怖の色を浮べたこ仁は一人も見当らんな、尤も、我が軍が、この

町を確と防衛するのに

間に合う程、早くは到着出来なかつたこととて、敵方に、あれ程の勝利を齎したのだがな。

大佐一 裏切りが起つたのですな。

アルフ あの都市一つでも、どれくらい富裕さを誇っていること故、

敵方は自慢たらたらとなりましょう。

大佐一 彼等は、あの町で、敢て掠奪

を働くことは出来ずまい。

アルフ 彼等は、未だ慈悲深くなれるし、

彼等は、自分達の権限をば、個人的資産を凍結し、手に入れた

その資産を一般公共の用途に振向ける、という点に絞っているのだ

すな、彼等は、自分達を取り(借り)上げる

如何な品物にも、払い戻しを保証しているし、一人だけでは

その信用が当てにはならぬ、如何な個人でも、同じく充分な信用の

ない、

他の人々と合流して組を作り、組み合わされたその担保をば、

拒否するとしたなら、狭量ということになるでしょうな。

コラム

名譽面目を

10

5

を喪つことなく

この事態を修復出来るものかな、諸君？

ヘルナ

手前の意見は、

暫しの間、事態を静観する、ということですか。

コラム

あんたがそう考える理由は？

ヘルナ 彼等自身の

飽食が、彼等を裏切る迄は待つ、ということですか、むしろ、敵方の兵士達は、

お粗末でありふれたパンを食べて育つたこととて、自分達が見つけた出した

豪勢な佳肴珍味を前にしては、えらく旺盛な食欲を見せつけてくれるでしょうから

敵方は、我が方の武力に勝利を取って置いてくれましょう。

自分達の馬鹿騒ぎと、淫らがましさとの所為で、彼等が、いざ身を亡ぼすとなった暁にはね。

大佐

そのお陰で、

我々の隠忍自重は、余りにも恐怖そっくりに見えましよう。

貴方に反論するのを、貴方がお許し下さるならばですが、

(敵方の手による) 都市の略奪破壊は、(敵方の) 兵士達の勇ましい

戦意をば、

殺ぐところか、それを二倍にも殖やしてくれましよう その上、

我々が腑甲斐なくも静観している間に、敵が戦勝を収め、

(この町が) 潤沢富裕なのだ、という噂を聞きつけて、敵の軍勢は、その数が膨れ上がりましよう。

ヘルナ

敵方の人数は、相当なものですぞ。

我が方は、

歩兵、又は、騎兵に関しては、敵に劣っており、我が方の召集兵は、

合計一万六千名を超えてはいないのだし、歩兵は

未熟で、戦闘の訓練を積んではいませんか。

アルフ

彼等の勇猛心は、

只管その祖国の名誉面目だけを、雄々しくも彼等に考えさせ、

戦闘の仕方をも教え込んでくれましよう、たとえ彼等が剣を

見つけなかったとしてもね。ですが、我々は、我が方の兵士達を余

りにも過小評価し過ぎていますぞ、

兵士達は、積極的に成功を捜し求めようとするし、

貪欲に名声を目指して、武器を執り上げるのですからな。(コラム

ボ、及び、ヘルナンド、立ち上り、内々で話し合う)

コラム

大佐、

あんたが卑怯者ではないか、と私は思っているぞ。

ヘルナ

何ですと？

コラム さもなくば、反逆者だな、何方でも好きな方を選ぶがよい。

だが、この話はもう止そう、

私は、あんたを作戦会議に呼んだのだからな。

だが、己が分を心得ているがいい。

ヘルナ 私は、今迄別の名前を名乗ってきたのですぞ。

コラム その名に相応しいようになるがいい。あんたみたいな人が、

別にもう一名いるとしたら、それだけで、一軍の度胆を抜くに充分

なのだ。

敵が酒を呑み啜らい、千鳥足で蹠跟めき歩くようになり、遂には死

に到る迄も、

下劣不名誉にも隠忍自重いを伝々するとはな！ 我々は、正々堂々

と闘い、敵を、否応なしに、

尻に帆をかけて遁げ出させるべく、やって来たのだからな。あんた

25

20

15

35

30



には、自尊心（節義心）の持ち合わせはないのだな。

自分が腑甲斐なくも長舌を振るつのに、顔赧らめるのに充分な程の

高潔な情熱も、あんたは備えてはいないのだよ。

ヘルナ 閣下、手前は

將軍への己が義務本分を承知していませんぞ。ですが、手前は

此処にいるのだ、と今迄知っていた人が何人かいます。手前は

我が連隊の職を免じて頂きたいのであります。

コラム 認可してあげよう。

おい、インクと紙を持って来い

従僕 紙、ペン、及び、インク・スタンドを携えて登場し、次いで、

退場する。

大佐一 將軍はこ機嫌斜めだぞ。

大佐二 一体如何されましたか、ヘルナン

ドー殿？

ヘルナ 將軍は、私への役目を発見なさったので、

返事の手紙を書いておいでなのです。

アルフ 大尉一 あの方の恋人宛に、ですか？

ヘルナ どうか、私の心を煩わせないで貰いたいものだが、しかし、

話をしても、

あんたの友人味方（たるこの私に）お追従は言わないでくれ。あん

たは、私が敢て

己が剣を引抜いて、それを揮うことはないのだ、とお思いですか

な、大義名分が、

礼を尽くして、「さあ、起て！」と呼ばわっているというのには？

アルフ 大佐一 この

世に生きている、剛勇この上ない人と一緒にね。

ヘルナ もしも私へのあんた達の支持ぶりに、將軍が気付いたなら、

（私への）あんた達の敬愛もマイナスに働くかも知れん。

どうか、夫々の部署へ戻られよ。

コラム（ヘルナンドー）では、

その書状を国王様の許へ届けて貰いたい。

それには、太陽がもう一度沈まぬうちに、敵に攻撃を仕掛ける、と

いう

私の決意が認められたからな。

ヘルナ（傍白）士官を退散させる、鮮やかな宮廷流のやり方だな。（コ

ラムボに）ご命令に従いますぞ。貴方のご計画に

成功が伴いますように。（登場）

コラム もしも、この場に、敢て危険を直視して、

一廉の人間らしく、死を物ともせず、危険にぶつかるとも出来

ぬような者が誰かいるとしたならば、

その者には、座を外して頂きたいものだ、して、卑怯者特有の恐

怖が彼に取憑き、

糞れ果てさせて、亡霊にしてしまおうがいい。

大佐一 そのような者は、一人

たりとも、この場にはおりませんぞ。

コラム さもなくば、あんた達の連隊を挙げて、見事に

己が血を流すのも辞さぬ、という者が一人でも見つかったなら、

給料を倍額支払った上、その者に軍隊を立去らせるがいい。

まともな兵士達の、軒昂たる意気と、尽力とを必要とするような

軍務を果たさなければならぬのだからな。

大佐一 貴方は、我々全員に新



たな情熱を奮い起こさせて下さいましたな。

コラム 私は、決意を固めているし、あんた達は、時を逸してはならないのだ。

昨夜促えられた兵士は、私に、

敵方の全兵力と、我々には、町に

一群の支持者達がおり、この川が防衛されてはならず、

それ故、この町は両方に向って開かれている、とも打明けてくれたのだ。

我々は、今宵決意を固め、腕を揮わねばならぬ、

我々は、不名誉に斃れることは出来ないのだからな。

大尉一 その意見は、誰もが抱いているものですか。

兵士二名、及び、アント二才、書状を携えて、登場

コラム 今度は何用かな？

兵士 書状が届きましたぞ。

コラム かな？ 何処から来たもの

兵士 公爵夫人からのものであります。

コラム それは歓迎だな。

今宵もつ一度、私の幕舎で会うことにしようぞ。だが、待てよ。

おい、葡萄酒を持って来てくれ！ 公爵夫人の健康を祝して、乾杯！

(飲む) 酒が皆に行き交るようにしてくれ。(脇へ行って、手紙を  
開封する。)

アント これでは、閣下のお気には入りますまい。

大佐一 公爵夫人の健康を祝して、乾杯！(飲む)

大尉一 私の方にだ！ もっと葡萄酒を寄越してくれ。

90

アント 雲がむくむくと膨れ上がり、彼の目は、炎を射放っている。

それに続いて、一体如何程凄じい雷鳴が鳴り轟くものか、見ている  
がいい。

大尉二 將軍の許には、悪い知らせばかりが齎されるし、どうも、

公爵夫人が、さもなれば、国王様が病気に罹られたらしいですな。

大尉一 分、多

それは、枢機卿なのでしょうな。

大尉二 あの人の魂は、今迄長い間、神の

裁きを待っていたのですからな。

コラム (傍白) 彼女は、敢てそれ程傲慢無礼にはなれまい！ これ

は、公爵夫人の筆蹟だな。おまけに、こんな風に玩ばれるとは、

何と私の評判も落込んだことだろう？ 彼女は、手紙を書いて、私

に助言勧告してきたが、私は、自分の筆蹟で返事を認め、

彼女自身に対するありとあらゆる私の関心、彼女への約束、

乃至は、愛の誓約を断念する、ということ、私の名譽面目を

安全無事に保った俚、私が彼女の許へ戻るこれ以外の方法はない、

ということも書き添えることにしよう。

あの女性は、何か大胆不敵な悪魔に取り憑かれていて、

悪魔払い(厄除け)を必要としているのだ。さもなれば、この私は

愚鈍で無気力な、詰らぬ馬鹿者、つまり、公開の町の通りにある、

民謡が貼り付けられた標柱相応に、不名誉と誹毀中傷に充ちたヒラ  
を、

如何な口汚い才人にもピン止めして貰えるよう、己が額を差出し

ている

馬鹿者になってしまつのだ。(アント二才に向って) あんたが、こ

105

100

の書状を私の許に持参したのかな？

私の感謝があんたの心を昂奮させてくれるだろう。(ピストルを引

抜く)

アント

待って、お待ち

下さいよ、閣下。

110

一体何が因でそれ程お腹立ちになられたのか、手前は存じませんが、手前がこの書状を受取りました時、公爵夫人は、(閣下の)お怒りからの、これ以上の免れ方を教えては下さらなかったのです。たとえ貴方が、

死刑執行をしてやるう、というお気持ちにおなりでも、

そんな凶器はお使いにならずとも、貴方のお顔付だけで間に合いま

しょう。

(だから、)私は、このお役目は嫌だったのですがな。

コラム

おや、彼女は、

それを委託する時、その目か顔に、丸つきり怒りの色を泛べては

いなかったのかな？

アント

手前が見たことのある

春の夜が明け初める時宛らに晴れやかで、

息の乱れもなく、微笑みかける花々に口づけして、煽り立てようと

吹いてくる、微風みたいな息をしておいででしたぞ。

コラム

詩宛らの大袈裟な言い方は止すがいい。

アント

散文でのありとあら

ゆる真理真実につけ、

律義誠実さ、及び、貴方ご自身の名譽面目にかけまして、

あの方が、あれ程物静かで、優しいご様子をなさっているのを、手

前は今迄一度もお見かけしたことはありませんぞ。

コラム

私は、余りにも昂奮し過ぎていたのだろう、あんたは、そん

120

115

な私を赦してくれなくちゃいかんよ。

(傍白) 私には分かったぞ。公爵夫人は、心から私を愛していてくれるのだ。

私が別れを告げた時、彼女は、心中の苦惱困惑を、

言葉で言い表わし、不機嫌な眼差しで、私を非難したのだ。

あれは、私の帰還を促進させようとする方策なのだ。

恋とは、一千もの手練手管を擁しているものなのだ。それに応えて

やるう、

彼女が期待している以上に。して、彼女の心を堂々とテストにか

けてやるう。(彼等に向って) 諸君にお許し頂きたいものですな、

皆さん。

国王様のご健康には、葡萄酒の犠牲が相応しいでしょうからな。

(手紙を認めようと脇へ行く)

アント (傍白) こんな変化が起つたのを見るのは、嬉しいものだな。

して、有難いことに、私は、

知恵を働かせたお蔭で、救われたのだな。

大佐一

ねえ、

我々の主人を敬愛してもおらぬあの者に、兵士達の呪いが降り下れ

ばいいのだがな。

大佐二 それに、彼等は、他人にも聞こえる程の大声で呪いますから

な。

大尉一 彼等の呪いには、火薬宛らの性質が備わっているのですな。

アント 彼等は、やっと聞こえる程の低い声では、お祈りをしません

からな。

大佐一 我々の將軍は、丁度巧い具合には、体液が混ざり合っていない

いのです、

あの人の体内には、「火」(胆汁質 短気・癩癩)の成分の方が、

140

135

130

125

くつと勝っていますからな。

大佐一 あの人の恋人が、あの人の癩癩を冷ましてくれましょう 彼女の気質には

相当の粘液質<sup>14</sup>(冷静冷淡・無気力)が含まれていますからな あのお二人が、寢床の中で出会う(手合わせする)時にはね。

大尉二 三人目が出来るかも知れませんな。

大尉一 あの若年の公爵が、

あの女性の(処女性という)花を摘み取る迄生きておいてにはなれまい、とは、実にお気の毒なことですな。

大佐一 (罪もない)幼い者達を娶せるのは、国王様が為さったことだったのだ。

大佐二 王侯方が犯す、ありふれた悪行ですな。

お偉方の幼児達が結婚し、それから、花婿花嫁が共に成人する迄、花婿が大旅行に出て、彼が(お床入りという)大事業をやつてのけるべき肝心な時に、

死んでしまつて<sup>15</sup>いるのだが、そんな場合には、何時も決つて、男子の側に不運不幸が付き纏うのだな。

コラム この書状を、公爵夫人の美しの手にお渡ししてくれ。(アントニオに手紙を渡す)

アント 手前が

戻つて行きます迄、我がご主人様は、時の経つのを酷くもどかく思つておいでにならましよう。(退場)

コラム 諸君、

さあ、各人夫々己が部署へと立ち戻り、部下の兵士達を激励して貰いたい、諸君の精励ぶりを知つたなら、

私は誇りを覚えることだらう。あんた達夫々の、支配下の部隊の、全てを訪れた時にな。

155

全員 お待ちしておりますぞ。

大佐二 して、閣下のお指図通りに行動致しますぞ。

コラム あんた達は、

皆揃つて高潔の士だな。

(全員退場)

二幕二場

枢機卿、公爵夫人、及び、プラセンティア、登場

枢機卿 手前は、日毎の訪問を實行させて頂きますぞ、奥様、

手前の甥の不在中はね、して、手前のそんな氣遣いをば

もしも貴女がご嘉納下さいますならば、幸甚と思ひますぞ。

公爵夫 貴方は

私に名誉を授けて下さいましたし、

もしも貴方がこれ迄お受けになつていた待遇が、閣下のお人柄に

相応しいものではなかつた、としましたなら、それは、私の力が

及ぶ範囲内では、丸つきりに届かなかつたからですわ。だけど、

熱意が欠けていない場合には、それ以外に不足しているものとして

は、

その唯一の役目が、貴方の慈悲心を働かせるだけの落度 といつこ

とになるのですわ。

枢機卿 貴女は、万事に氣前がよくていらつしやいますな。美しの姪

御よ、

近々、甥のコラムボが、その評判と眞価とを、

氣高い貴女にいや高く評価して頂けるよう、戦場で更なる

名誉面目を獲得しましたなら、直ちに、手前は、お暇乞いを致しま

10

5

すぞ。それ迄の間、  
自分には（この私という）友人味方がついているのだ、と確信して  
おられて宜しいですぞ。その職務柄、及び、  
国王様のお引立てに与っていることとて、手前は公爵夫人の貴方に  
お仕えするのに役立ちましようぞ。

公爵夫

貴方ご自身の立派な行いが、

15

貴方に報いてくれますように。

この私が、気前のよさという点で、貴方に匹敵するようになり、貴  
方のご親切を受けるに相応しくなります迄はね。（枢機卿退場）  
暫く私を一人きりにしておいておくれ。

（サラセンティア、退場）

この私は、蛇の毒牙の傍近くを歩いていながら、  
その毒を寄せつけぬ魔力を備えているかの如くに、

20

その毒牙を弄んでいるのではないのか？ 枢機卿は狡猾な人物故、

彼を煽動するのは得策ではないのだ、コラムボが、

一体如何な運命の手に、この私を委ねるものか、私が聞き届ける迄  
はね。

多分その精神の偉大さ故に、不平不満を抱いていると、

一体如何なことが生ずるものか 告白する気にはならないだろう、

もしも彼が私を幸運至極にもそんな風に理解してくれているとす  
ればね。

アント二才、書状を携えて、登場。

25

戻って来たの？

アント 閣下が、奥様に宜しく、と申しておいででしたぞ。

公爵夫

あなたは、

沈んだお顔付だわね。一体如何な風に、あの方は、私の便りをお  
受取りになったの？

アント（外部からの）衝撃を受取るようにですね、それ程酷い、憤

激という感情を抱き、その気魄（熱情）の全てを、顔面で沸き返  
らせ、

30

その両眼こそ、熱情の唯一の居場所だったかの如く、

その目に燃えるような、途方もない情熱を宿らせましてね。して、

その

一睨み毎に、かのサラマンダー<sup>(16)</sup>が一匹宛跳び出して来たのです。

その溶鉱炉の熱さに耐えられなくなつてね。

公爵夫 おや、あなたは、

あの方を随分怖い人みたいに話したわね。

アント

あの方が、再度

35

貴女のお便りをお読みになって、そのご趣旨を理解されるなり、

憤りに任せて、あの方は、手前をピストルでお撃ちになつていたこ  
とでしょう、もしも私が、

その弾丸に魔法をかけるべく、何か聞いて快く、

後悔している、という意味の言葉を口にしませんでしたらね。

公爵夫

私が

ら少し離れて、待って下さい。（アント二才 脇へ立退く）

私の心は、冷たい露の中にその身を浸している。

この私が、墓を暴いているところだ、と想像してみよう。（書状を  
開く）

40

こんな風に、私は、大理石の墓石を投げ捨てる。すると、

私を脅かすべく、仄暗いこの

墓穴<sup>(17)</sup>の中で、一体如何な奇抜な姿勢（をとった者）を、死神が見せ

てくれるものか、が分かるのだ（書状を読む）

おや、我が惧れ心が、私の心の中に侵入しようとするのを防ぐ為、我が情熱と気魄とを呼び起した私の心は、絶えずその周囲への見張りを怠らさずになければいけないのだ、このいとも不可思議で、余りにも素晴らしい歎びが、その私の心を押し潰して、無しにしてしまわないようにね。

アント二オ？

アント はい、奥様。

公爵夫 排宅の執事に言いつけて、

二千ダカットの金をお受取りなさい。この私がちゃんと目覚めているのは、間違いないかしら？

アント 貴女に確と申上げることが出来ましょう、奥様

執事殿が私にその金を支払ってくださいましたね。

公爵夫 コラムボは、今やもう高潔な人になってくれたわ。(公爵夫人、退場)

アント

こいつは

私が

予想していたよりも素晴らしいことになったものだな、もしも奥様が

気が狂<sup>ふ</sup>れている訳<sup>(18)</sup>ではなく、永生きなさって、ご自分の気前の良さを正当化して下さるものならばね。(退場)

二幕三場

国王(ジョン)、アルヴァレス伯爵、ヘルナンドー大佐、貴族達  
登場

国王 戦については、(彼)に任せてあるのだが、予は、是が非でもあなた達を和解させなければならぬ、もしもそれだけであなた達が仲違いしているのだったらね。

彼の憤激は、反対(する者)に出会ったとなると、急流宛ら、どっと奔り出るのだ。その者を相手に組み討ちするのを止めたならば、熱く滾った彼の血(情熱)は引き退いて、冷静になる。

すると、彼は己が激情を叱りつけるのだな。あなたには、予からの書状を携えて、戻って行って貰いたい。

アント 陛下のご命令には、文句なし

に、

お従いしなければなりませんな。

国王 アルヴァレス。(彼を脇へ連れて

行く)

貴族一 (ヘルナンドーに) 温和しく服従して、

あんたらしさを喪わないで頂きたい。彼には、自分の考え違いと、

あなたのような立派な武人が払底していることが分かるでしょうか

貴族二 貴方は、枢機卿にお目にかかりましたかな？  
ヘルナ 未だお会いして

はいませんぞ。

貴族一 あの方は、如何な策略も

ヘルナ 国王様に、手前は従わねばなりま

せんな。

ですが、深紅色の衣装を着用した枢機卿がそうしたいなら、

この私を傷つけられるような武器を、暗がりには匿しておくがいい。

貴族二 我

等は、自分達に叶う限り、

貴方にお味方致しますし、国王様も、貴方の尽力をば、

お忘れにはならぬまい、と確信なさって下さい。

ヘルナ

お気の毒なあなたの方

のことは

残念に思いますぞ。

アルヴ（国王に向って）正直に申し上げなければなりません、

公爵夫人は、ご自分が示されるご好意に、この私が相応しい、とお

考えになって、

お悦びになり、私に大変な名譽を授けて下さったので、

自分に叶う限り、彼女の為に尽したい、と思う程、私に感謝させて

くれたのです。

それ故、彼女が、手前に目をかけていてくれる、という大胆な自信

を抱いてはいても、

彼女が幸せになること、及び、彼女の夫君をば、貴方がお選びにな

られることに、

手前は、嘴を入れる心算もないのです。

彼女の貞淑さをば、手前は大いに敬愛しているので、ありとあらゆる

自分の欲望を

捨ててしまいましたが、温かい己が生血を

すっかり流し尽してしまうのも、尻込するものではありませんぞ、

その最後の一滴でも、

彼女の願望に役立ちますならばね。

国王

その行為故に、

あなたに酬いてあげるぞ、アルヴアレス、

予は、それが大いに気に入ったな。

公爵夫人、書状を携え、王室部官と共に、登場。

公爵夫

貴方、貴方は国王様でいらっしや

いますわね。

そして、いとも神聖な、その称号をお持ちのお方が、正義(19)の女神

をお疑いになるとしたなら、

罪とも言えるでしょうね。この世での私の生に

関わりのある全てのこと、及び、あの世での至福の

大部分は、貴方が仰有ることに懸っているのですわ。

国王、公爵夫人、貴女は、一体如何なお心算でそう仰有っておいでで

すかな？

公爵夫（国王に書状を渡しながら）これをお読みになれば、お分か

りになりますよ。コラムボ殿は、

私よりももっといい相手を見つけた為か、私に不満を抱いている所

為で、

哀れな私の心を解放して、自由にしてくれたのですわ。

国王

これは、彼

の筆蹟だな（読む）

「奥様、私は、貴女の愛、及び、貴女ご自身を要求する、自分の権

利を悉く、自発的に抛棄しますぞ。私は、貴女の御身の処し方を

ご自分の選択に委ね、我々の婚約に関しては、もしも貴女がそつ

したい、と思われるなら、それを取り消す権限を取戻して頂きま

すぞ。コラムボ拜

これは、不思議なことだな。

公爵夫

さあ、これから陛下の治世の記録が、

民衆に愛されて、何時迄も読まれるようなことをなさって下さい。

25

20

15

35

30

40

国王 あんたの所存を申し述べられるがよい。

公爵夫 神のお力によって、コラムボ様は、私を解放しよう、という

お気持ちになられたこと故、

何しろ、如何な技巧を用いようと、あの將軍に、これ程の

変化を起こさせることは出来ずまいから、この正義公正の後押し

をして、

コラムボ様を愛するようになり、という貴方の敵命によって、

(それは天意によるものだったのですけれど、) 貴方が、私から

引離そうとなさったその人の心を留保され、貴方の権限によって、

貴方が、私と別れさせなさったアルヴァレス様を、私に取戻させて

頂きたいのです。

貴族達

それは、

只管正義公正に他ならないではありませんか。

国王

れたことだったのだ。

して、些か無理矢理に あんたの願望に反してでも、

受けるよう、予がコラムボに説得していた、彼の(要求する)権利

をば、

コラムボが放棄してしまったからには、あんた自身が望んでいるも

のを、私はあんたにあげるから、

あんたの愛するアルヴァレスを受取るがいい。あんたが、自分の

婚儀を挙げよう、という気になったなら、私は、自分自身を

あんたの賓客として招待しようぞ。

公爵夫

永劫の天恵が、貴方に栄冠を授

けましょう。

一同 して、誰もが貴女の婚姻を寿ぎ、祝いましょう。(国王は、退

場しようとして、枢機卿と出会い、二人は話し込む)

アルヴ こんな途方もない幸せに出会って、手前は、これつきりとい

う程驚き怪しむべきか、

さもなれば、悦んでいいものか、分かりませんな。

公爵夫

今や国王様は、

私達を植えつけられ、思うに、私達は、もう既に芽を出していて、

私達を分け隔てようとす雷電の憤怒を超えて、

愛し合う私達の心を結び合わせているようですわ。

アルヴ おや！ 枢機卿が

国王様と出会ったぞ。あの二人の協議は気に入りませんな。

王は、怒りをこめて、此方を見ておられますぞ。どうも

嵐が吹き荒れそうですな。

公爵夫

国王様がいらつしやることなど、気にな

さいません。

あの方に会って、申し開きすることは、この私に任せておいて下さ

い。もしも国王様が、

国王として、そのお約束をしつかりとお守り下さるならば、私は、

稲妻を惧れたりはしませんわ。

庭園で私をお待ち下さいな。

アルヴ

お言葉通りに致しますぞ。

ですが、海岸沿いでの船の難破をご心配下さいよ。(退場。次いで、

ヘルナンドー、貴族達、王室式部官に伴われて、国王、退場)

枢機卿 奥様。

公爵夫 猊下。

枢機卿 国王様は、その中に謎が含まれた書状について

話しておられますぞ。

公爵夫

その謎はすらすらと解けますわ。

枢機卿 それは、手前の甥からの書状ですか？ 読ませて頂いても宜

55

50

45

70

65

60



しいかな？（公爵夫人、彼にその書状を渡す）

公爵夫（傍白）彼は丸で、その目でこの書状に火を点けてやる、  
というような様子をしているわ。

それは、物を焼き尽す一対のレンズで、

悪意ある彼の血が、その目を燃え立たせているのだ。

枢機卿（傍白）一体如何な無気力（倦怠）が、これ程彼の元気を喪  
わせるようなことがありえたものかな？

こいつは、奇怪至極だな。（公爵夫人に）お考えなきように、奥様

コラムボの愛は、貞節淑徳と、貴女ご自身にとって、

更にもっと神聖なものではない、なんてね。こつして、

ありとあらゆる自分の功績（真価）に対する輝かしい花冠だ、と

彼が呼んでいるのを私が聞いたことがあり、国王様から、彼が与え

られたものを喪つてしまつよりもね。

その国王様から、今迄彼が、勝利を博して帰還した時よりも、もっ

と大きな

誇りを抱いて、彼は貴女を受け取つたのですな。彼の口づけは、

熱望するが如くに、未だ、貴方の唇に残っているでしょうが、彼は、

つい最近、貴女に

熱愛をこめて別れを告げ、更にもっと勝利を博した上で、

貴女のものとなるべく、帰還しよう、と約束したのですな。

公爵夫 狎下、

貴方は、甥御さんの手勢が、敵の奇襲を受けたり、遙かに優勢な

敵軍と遭遇した所為でこんな事態に到つた訳ではない、と思つてい

らっしゃるのですね？

枢機卿 それは、いと謎めいた、不可思議な世の中の、業と紆曲で

すが、

又、複雑な成行きでもありませんな。一体誰がこの書状を持参したの

75

ですか？

公爵夫 私は、その者の名を別に訊ねはしませんでしたわ。そんな詳  
細迄も

知ろう、と人に訊ねてみる事が重要だ、などとは思いませんでし

たものね。

枢機卿 コラムボの真価と名譽面目とが、此処迄彼を駆り立てたのだ。

又、私は、

あんたがお腹立ちでも、咎め立ては出来ませんな。しかし、彼は、

その人柄からして、

自分の高位により相応しいように、否応なしに、あんたを立止まら

ねばならぬようにさせたのだ。

世間周知の、立派な値打ちを備えたコラムボから、如何な程多情放

埒な

あんたの願望に叶つていようと、彼の生まれと、その真価とによつ

て、

高められている彼の評判をば、最低に見積つたよりも、もっと劣つ

た者の腕の中へと、

あんたが途方もなく酷い（恋の）誓約の変更をされぬうちにね。

公爵夫 其  
の比較はですね、

枢機卿 狎下、公明正大な正義感から

発せられたものとは思えませんわ。それは、うっかりと、

貴方が、ご自分の血縁者（gōp）ばかり依怙鼻臙していらつしや

ることを表わしていますものね。

枢機卿 どうも、奥様、

貴女ご自身の熱情（gōp）は、余りにも自由奔放に振舞い過ぎる

ので、直きに、

100

204

95

105

口さがない世人の気候な非難に晒されるようになりそうですな。  
 アルヴァレス伯爵が、よりのつべりした顔で、丸で女みたいにも  
 じゃもじゃと伸びたその頭髮の手入れをしたり、  
 (宮廷で見せるのに相応しいよな) 気取ったポーズを見せつけよ  
 つ、と

半日もの間、鏡を覗き込んで過ごしたりして、  
 貴女の寝床に男らしさよりも、女々しさ、乃至は、  
 貞淑さ(名譽面目)を齎せるとしたとて、その彼がコラムボにとつ  
 て代わらねばならぬものでしょうかな?  
 世間一般の噂に気をつけるがいい、それが、忘れ去られてしまった  
 名声の臭いを嗅ぎつけたなら

公爵夫 私の名声でございますが、枢機卿  
 下、

それは、貴方が天に捧げられるお祈りと同様に、  
 汚れない純真無垢に基いているのです。  
 私が今度告白懺悔する時には、貴方のお優しい  
 赦しをお強請りしたりはしませんわ。

枢機卿 貴女は、素敵な宮廷出入の女  
 性ですな。

公爵夫 貴方も、尊敬すべき聖職者様に違いありませんわ。  
 枢機卿 (この私は)

もしも貴女が慎み深さをかなぐり捨ててしまったのでなければ、  
 アルヴァレスなど振り捨ててしまった方がいい、と勧告したい、と  
 思っている者ですぞ。

公爵夫 貴方が、敢て、  
 世俗的な結婚よりも、もっと酷いことをなさろうとしているからに  
 は、この私には、

教会と法律とが、私に許してくれていることが、認められてはいけ  
 ないものでしょうか?  
 枢機卿 無礼な! すると、あなたは 敢て彼と結婚なさるお心算で  
 すかな?

公爵夫 「敢て」ですって!

燃えるような(下劣な意図をもった)貴方の悪意と、  
 それよりももっと高邁な、コラムボの憤りとが共に、  
 私共が、手と手を握り合せて、その聖地に近づいたなら、私達と  
 会戦してくれるがいい。すれば、私共は、力を合わせ、貴方の力  
 (軍勢)を悉く突破して、私達の神聖な  
 恋の誓約を其処に確立しますわ。

枢機卿 それと同じような、貞節そうな  
 (涼しい)顔をして、

何時貴女が頼もしく他人の目に映ったか、  
 手前は承知していましたが、貴女は猫っ被りの女性などではありま  
 せんからな。

公爵夫 ありとあらゆる貴方の行動が、私と同様、偽善的なものでは  
 なければいいのに、と思えますわ。

枢機卿 おや、何ですと?

公爵夫 でなけりや、民衆は、あれ程声高に話したり、呪つたりはし  
 ないでしょうね。

枢機卿 そんなことを仰有るなら、貴女を叱りつけて、顔赧らめるよ  
 うにしてあげますぞ。

公爵夫 それは、貴方ご自身から始めて下さい、偉いお人よ、そうす  
 る充分な理由がありますからね。

貴方は、望遠鏡の、間違つた方の端を、ご自分の罪惡に  
 向けているのです、それ等の罪惡が、ずっと離れて、

小さく見えるようにね。けれど、貴方の目に正しく物を見させるの  
です、  
すれば、貴方の高慢傲岸と強欲とが、如何に巨大なものに見えるこ  
とでしょう！

幾家族もの人々を丸々食い潰したりする、貴方の貪欲さは、何と途  
方もないものでしょう！

貴方の腐敗堕落ぶりとは、国王様にあらぬことをお聞かせして、  
そのお耳を汚すのは、何と酷いことでしょう！ そのお耳から、貴  
方は耳飾り宜しくぶら下っているけれど、

それは、飾り立てる為ではなく、潰瘍を生じさせる為なのですわ。

一方、律義誠実な

貴族階級（の人々）は、アラス織の壁掛けに描かれた絵と同様、  
唯、宮廷用の装飾としてのみ役立っているのです。もしも彼等が話  
をするとしたなら、

それは、貴方の好みの時間ピッタリに打つように、時計みたいに、

貴方がぐるぐるとねじを巻いた彼等の舌を合わせた時なのですわ。  
捨てて、お捨て下さい、猥下、貴方が強奪なさったそれ等の物をね。

して、貴方向きの方におなり下さい、つまり、宗教信仰に  
瘡（あざ）を入り込ませるのではなく、（病を）癒すお人にな。

教会が負っている損傷（味わっている苦惱）を眺めて下さい。

枢機卿

たは、敢て、

私への酷い腹立ちから、教会を悪しざまに罵ろうとなさるのかな？

公爵夫 ああ、貴方は、偽りの内情をお知らせになったのですわ、猥  
下、教会の祭壇から

栄光を奪い、その顔に傷跡を遺すのは、他ならぬ貴方の野心と、

深紅色の罪なのであり、それが、その（教会の）顔に、悲嘆と、

蒼白さとを泛ばせており、乱れ騒ぐその胸を

呻きで喘がせ（息切れさせ）、尊敬すべき、貴方の深紅色の衣装の

中に、

敬虔清浄なその赤面紅潮の隠れ場をは、

捜させているのですわ。

枢機卿

さあ、一息お吐きになっては如何ですか？

公爵夫 猥下、物の姿が歪まずに見える鏡に、ご自分の姿を映して

ご覧になり、貴方のお姿をこれ程醜く見せている、

不法不当なその行動を罵と眺められ、短髪の清教徒達が

群がり集って、「正義公正を！」と叫び求めもせぬうちに、手遅れ

にならぬよう、救済策を講じられて、

不面目な事態に陥るのをお防ぎ下さいな。私はお暇を頂きますわ。

（退場）

枢機卿 あの女性は、昂揚すれば、悪魔の魂をも、打拉ぐことが出来

るような

気魄の持主だ。怒り猛る彼女の口舌を相手にして、

取引することなど出来んな。彼女の憤激を鎮めるに違いないのは、

実際の行動と報復なのだ。もしもコラムボが此処にいるとしたなら、

私は、決意を固めることも出来ようが、軍隊へと、書状を

送ってやろう。すれば、彼を目覚めさせて、軽率な彼の

愚かしさに気付かせてくれるか、さもなければ、彼の気魄に指図して、

彼の名譽面目をば、力づくでも、可成遠く迄も引離れさせられよう。

偉大なる人々は、誰しも知っておるのだ、人生の要諦とは、名譽な

のだ、とな。

（退場）